

1. 目指す学校像

建学の精神である校訓三綱領の『一、履正不畏(りせいふい)：自ら正しいと信ずることを、何ものにも畏れず勇気と責任を持って実践する。二、勤労愛好(きんろうあいこう)：勉学に全力をつくし、人類の文化を継承発展させ、国家社会に貢献する。三、報本反始(ほうほんはんし)：初心にかえり、自分の今日あるのは縁ある人々(ご両親や恩師)のお陰であり、常に感謝と報恩の念を持ち、行動の指針とする。』の訓えをもとに、知性と豊かな人間性を有し、次世代を担える生徒の育成。

2. 中期的(令和3年度)教育指導 重点目標

(1) 知育尊重と人間教育

1. 進学指導の充実と進学実績の向上
2. 生徒を集中させる熱意ある教科指導
3. 3ヵ年・6ヵ年の各コースの特性を活かした学習・進学指導

(2) 創立100周年に向け、優れた進学校私学履正社として更なる飛躍を目指すため、ニーズに応える信頼づくり

1. 生徒・保護者からの信頼づくり
2. 社会性の育成と地域に信頼される学校づくり

(3) 環境・システムの醸成

1. 心豊かで潤いのある学校生活

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年度末]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活は楽しい。 ( 令和2年度：88.5% 令和3年度：89.6% )</li> <li>・ 授業に先生方の熱意が感じられる。 ( 令和2年度：85.4% 令和3年度：85.4% )</li> </ul> <p><b>【保護者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者としてこの学校に子供を通わせて満足している。 ( 令和2年度：89.2% 令和3年度：86.4% )</li> <li>・ 授業に先生方の熱意が感じられる。 ( 令和2年度：85.6% 令和3年度：84.6% )</li> </ul> <p><b>【教職員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ①教員は授業に対する十分な教材研究・事前学習に努めている。 ( 令和2年度：88.9% 令和3年度：87.0% )</li> <li>・ ②生徒はしっかりと集中して授業を受ける体制が出来ている。 ( 令和2年度：69.9% 令和3年度：65.2% )</li> </ul> <p><b>【学校運営全般】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒と保護者の全体質問(生徒：40問、保護者：38問)に対する肯定回答比率(四捨五入で7割を肯定目途とする)は、生徒は昨年と変わらずの90%であったが、保護者に至っては、2年前の100%から令和2年度では、89.5%、令和3年度では、81.6%と下降した。特に昨年度より下降した項目を検証すると、(6. 授業参観・8. 授業公開について・33. 保護社会活動)の3項目で、コロナの影響を大きく受けていると推察できる。教員による自己評価では、全体質問で45問に対する肯定的回答比率は、昨年度の73.3%から64.4%と大きく下降している。本校では、その反省を生かし保護者説明会や学習活動の一部に、オンライン等を使う機会を増やしている。特に令和3年度は、ICT活用が2年目となり、職員にも浸透してきた感がある。これからもコロナ禍での生活に研鑽を積み、期待に応えられるよう努めたい。</li> </ul>	<p>*令和3年度教職員による自己評価、及び生徒・保護者による関係者評価に基づき、昨年度と対比しながら総括する。</p> <p>議題：学校の危機管理について 数値で検証してみれば、生徒では令和2年度は68.9%、令和3年度は、77.6%の満足度、保護者では、令和2年度は66.7%、令和3年度は74.8%とどちらの数字も、令和2年度から上昇している。職員の自己評価では、令和2年度は59.3%、令和3年度は、56.5%の満足度となり、下降している。今年度は、避難訓練等を実施することが出来たので、生徒や保護者の目からは、満足度が増えた感はあるが、職員からは、まだまだ不十分であるという評価となった。近年災害意識が高まっている中、常日頃より三者一丸となって危機管理意識を高めていくことで認識が一致する。</p> <p>議題：授業運営について 特に自己評価N020「生徒はしっかりと集中して授業を受けることが出来ている」に対して検証すると、令和元年度(3年前)の70.4%から令和2年度(2年前)は81.5%と11.1%上位していたのが、令和3年度の評価は65.2%で、昨年度より16.3%下降している。コロナ禍での生活が続き、ICT活用で、授業の確保はできるようになったのだが内容については不十分だった。授業内容を精査し、生徒が集中できる環境づくりに励みたい。職員はこれからも生徒にしっかりと寄り添い、今まで以上に家庭と一体となった両輪指導に努めたい。</p> <p>最後に保護者会より、職員・生徒・保護者の年度末アンケートで、左記の【学校運営全般】肯定的回答の数字を見れば本年度も大過なく、順調に学校運営がなされたと評する。今後も生徒達の小さなサインに反応し、家庭と両輪の指導を是非継続的にお願いしたいとのコメントを確認する。</p>

### 3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指数	自己評価
(1) 知育尊重と人間教育	<p>1. 進学指導の充実と進学実績の向上</p> <p><b>あ)</b> 3 <b>い)</b> 38 <b>う)</b> 39 <b>え)</b> 40 <b>お)</b> 41 <b>か)</b> 42</p> <p>2. 生徒を集中させる熱意ある教科指導</p> <p><b>あ)</b> 19 <b>い)</b> 21</p> <p>3. 3カ年・6カ年の各コースの特性を活かした学習・進学指導</p> <p><b>あ)</b> 3 <b>い)</b> 26・27</p>	<p>1. <b>あ)</b> 教員間の信頼関係のもと、生徒の学校生活向上のため様々な教育的情報交換を積極的に行い、教育活動に活かせるように努めている。 <b>い)</b> 生徒の実態・実情に即し、授業内容や教材について適宜職員間で意見交換をし、授業や指導に役立てよう努めている。 <b>う)</b> 中高間の分掌移動時や経験の少ない教職員(新任を含む)をサポートする体制(チューター制度)は整っている。 <b>え)</b> 人権問題や大学入試改革を見据え、必要に応じて講師を招聘し、効率的・効果的に学内研修に参加できる体制は整っており、積極的に参加している。 <b>お)</b> 研修に参加した教員は、出来る限りその成果を他の教員と共有するよう情報交換に努めている。 <b>か)</b> 教職員の資質向上の意欲を喚起するため、生徒の成績分析会を適宜開催したり、またそれに代わる参考資料提供に努めている。</p> <p>2. <b>あ)</b> 教員は授業に対する十分な教材研究・事前準備に努めている。 <b>い)</b> 学習内容はクラスのグレード編成に応じて効果的に展開されている。</p> <p>3. <b>あ)</b> 教員間の相互理解・信頼関係に基づき教育活動を実践する。 <b>い)</b> 個々の生徒について状況などを把握する体制を整える。</p>	<p>1. <b>あ)</b> 70%以上 <b>い)~か)</b> の平均指数 70%以上</p> <p>2. <b>あ)~い)</b> の平均指数 80%以上</p> <p>3. <b>あ)</b> 70%以上 <b>い)</b> 80%以上</p>	<p>1. <b>あ)</b> 令和3年度は、前年比+4.8%の82.6%に至る(○)。コロナの影響で、対面授業からオンラインでの授業(ICT活用)を増やしており、令和2年度は、不慣れな先生が多かったが、2年目になると、職員もうまく利用できるようになった。これからも精進し、更なる研鑽に努めたい。 <b>い)~か)</b> 令和2年度の平均値は56.3%、令和3年度は55.7%で及第には至らない(×)。職員間の研修への参加意識(中学校の場合は、大学入試を対象に予備校が主催する入試科目等の研修はないが、全学規模【中高合同研修】の教職員人権研修・大学入試改革研修・心肺蘇生研修の3本がメイン研修となる)は高いレベルまで醸成されているのだが、令和2年度に引き続き、教職員人権研修しか実施出来なかったことが要因の一つに挙げられる(×)。しかし<b>お)</b>の研修成果の共有についての項目では、昨年度と比較して+10.8%上昇している。この結果を真摯に受け止めて、全体的な及第まで、更なる努力と研鑽に努めたい。</p> <p>2. <b>あ)~い)</b>の令和3年度平均指数は、前年比-6.0%の84.8%に至るが高水準を維持している(○)。保護者・生徒の学校評価にある“この学校に子供を通わせて満足している”、生徒の“学校は楽しい”の平均も88.0%と高水準を維持している。正に私学ならではの理想的な三位一体となった展開を嬉しく思う。本校に託された期待をしっかりと受け止め、更にきめ細かな教育を心がける。</p> <p>3. <b>あ)</b> 分析は1-<b>あ)</b>を参照(○)。 <b>い)</b> 前年比+2.1%の89.2%と、高水準を維持している(○)。この観点こそ、私学に子供を託する保護者の思いが一番込められていると認識し、更に期待に応えられるよう継続的な努力をしてゆく。</p>
(2) 社 創立100周年に向け、優れた進学校私学履正として更なる飛躍を目指すため、ニーズに応える	<p>1. 生徒・保護者からの信頼づくり</p> <p><b>あ)</b> 24・26・28 30・32</p> <p><b>い)</b> 25・29・31・33</p> <p><b>う)</b> 34</p> <p>2. 社会性の育成と地域に信頼される学校づくり</p> <p><b>あ)</b> 11・12</p>	<p>1. 生徒・保護者には次の<b>あ)・い)・う)</b>の観点を信頼作りの基盤とする。 <b>あ)</b> 生徒の生活指導・進路指導・欠席過多の場合、組織的に対応する体制を整える。 <b>い)</b> 上記<b>あ)</b>に対する指導は、常に保護者と連携を取り学校と家庭の両輪で指導を行う。 <b>う)</b> 生徒の転・退学に至るまでの十分な指導と、保護者との密な連携を常に心掛ける。</p> <p>2. <b>あ)</b> 地域住民に対し、施設・設備の貸し出しや、交流を積極的に図る。</p>	<p>1. <b>あ)</b> の平均指数 80%以上 <b>い)</b> の平均指数 80%以上 <b>う)</b> の平均指数 80%以上</p> <p>2. <b>あ)</b> の平均指数 70%以上</p>	<p>1. <b>あ)</b> 令和3年度は前年比+2.2%の81.2%に至る(○)。その内容を令和2年度同様に<b>い)</b>で検証するが、前年比-6.0%ではあるが84.8%に至り、高水準を維持している。一定レベルでの保護者と連携が取れていると判断できるが、一方通行であってはいけないので、保護者の目線より保護者学校評価内の14,31項目で検証すると、令和3年度2項目平均で88.1%の及第点肯定的回答を得ており、両方で両輪指導が適切になされていることが検証できた(○)。 <b>う)</b> 令和3年度の指数は前年比-1.9%の87.0%となり、下がりしたが、数値的には十分な合格点である(○)。このケースに至る例は殆どないが、至れば上記<b>い)</b>で言及しているように何とか回避すべく、家庭との両輪指導で対応しているのが実態である。</p> <p>2. <b>あ)</b> 令和3年度平均指数は、令和2年度より16.8%下がり、63.1%に至る(×)。コロナの影響で、地域の方に対しての交流が持てていなかったのが、最大の要因であると推察できる。</p>
(3) 環境・システムの醸成	<p>心豊かで潤いのある学校生活</p> <p><b>あ)</b> 6・7・8</p> <p><b>い)</b> 9・10</p> <p><b>う)</b> 17・18</p>	<p><b>あ)</b> ホームページ、学校・学年・学級から保護者への情報提供と授業公開を定期的に行い、開かれた学校づくりに努める。 <b>い)</b> 危機管理マニュアルを踏まえ、警察・消防や関係機関との連携に努め、適切な校内訓練のシステムを構築する。 <b>う)</b> 環境教育の一環として、ゴミの分別・日々の清掃指導の徹底を図る。</p>	<p><b>あ)</b> の平均指数 80%以上 <b>い)</b> の平均指数 80%以上 <b>う)</b> の平均指数 80%以上</p>	<p><b>あ)</b> 令和2年度の86.4%から69.6%と、前年比-16.8%と大きく下降した(×)。昨年度より新たにホームページを一新し、保護者への情報提供に努めてきたが、まだまだ浸透していない感がある。また、コロナの影響で、授業参観も実施できなかったのが要因の一つであると推察出来る。 <b>い)</b> 令和2年度は64.9%、令和3年度は65.2%と0.3%上昇したが、及第には至らない(△)。令和2年度はコロナの影響で、避難訓練等の実地訓練が不十分であったのが要因であると推察出来る。令和3年度より新たに緊急時の対応として、携帯の所持を認めている。 <b>う)</b> 令和2年度は66.7%、令和3年度は69.6%と2.9%上昇したが、及第には至らない。(△)。ただ令和元年度(2年前)と比較すると+10.3%上昇し、少しずつではあるが、生徒達の美化意識にも変化が見えてきた。今後も更なる継続指導に努めたい。</p>